

# ステート・ストリート世界厳選成長株ファンド（FW専用）

月次運用報告書

追加型投資信託／内外／株式…ファミリーファンド方式

2025年11月28日

## [商品概要]

設定日：2022年5月31日 信託期間：約10年（2032年3月10日まで）

決算日：3月10日（休業日の場合は翌営業日）

設定・運用：

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

## <商品の特色>

### ◆投資目的

「ステート・ストリート世界厳選成長株マザーファンド」を通じて主として、世界各国の株式の中から、クオリティが高く、インベーションにより持続可能な成長が期待できる銘柄に投資することにより、中長期的な観点から、運用財産の成長をめざして運用を行います。

### ◆投資対象

ステート・ストリート世界厳選成長株マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。マザーファンドにおいては、日本を含む世界各国の金融商品取引所等に上場（上場予定を含む）している株式（預託証書（DR）を含む）に投資します。

## 設定來の基準価額(税引前分配金込)の推移

2025年11月28日現在



※基準価額（税引前分配金再投資）は、信託報酬（後述の「ファンドにかかる手数料について」参照）控除後の値です

基準価額	21,637円
純資産総額	681百万円

### 組入比率（純資産総額対比）

ステート・ストリート世界厳選成長株マザーファンド	99.9%
--------------------------	-------

## 基準価額騰落率（税引前分配金再投資）

## 分配実績（税引前、1万口当たり）

ファンド	決算期	分配金
1ヶ月	第1期（2023年3月10日）	0円
3ヶ月	第2期（2024年3月11日）	0円
6ヶ月	第3期（2025年3月10日）	0円
1年	-	-
3年	-	-
設定来	設定来累計	0円

※当ファンドの決算時に分配金があった場合に、その税引前分配金で当ファンドを購入（再投資）したとして計算した騰落率です

## ステート・ストリート世界厳選成長株マザーファンド 組入状況

### 資産内訳※

株式等	98.9%
現金他	1.1%
合計	100.0%

### 通貨別構成比※

米ドル	71.4%
ユーロ	7.6%
英ポンド	7.1%
台湾ドル	4.9%
韓国ウォン	3.1%
その他の通貨	5.9%

### 国別構成比※

アメリカ	62.1%
台湾	10.2%
イギリス	7.1%
フランス	6.2%
カナダ	4.1%
韓国	3.1%
日本	2.1%
ドイツ	1.5%
デンマーク	1.4%
ブラジル	1.3%
その他の国	0.0%

### セクター別構成比※

エネルギー	0.0%
素材	0.0%
資本財・サービス	12.9%
一般消費財・サービス	5.9%
生活必需品	0.0%
ヘルスケア	11.9%
金融	7.3%
情報技術	45.8%
コミュニケーション・サービス	10.8%
公益事業	2.1%
不動産	2.3%

※比率はマザーファンド純資産総額対比です

○本資料は金融商品取引法上及び投信法上の開示書類ではありません。

○本資料は、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社（以下「弊社」とします）が当ファンドの情報提供を目的として作成したものであり、投資の勧説を目的とするものではありません。

○本資料中の過去の運用実績に関するグラフ・数値等は将来の成果をお約束するものではありません。また、市場概況等は本資料作成時点の弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成日現在のものであり、将来予告なく変更することがあります。

○当ファンドは主に国内外の有価証券に投資するため、組入れた有価証券の値動きおよび為替変動により基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託の商品特性上、上記以外のリスクもあります。

# ステート・ストリート世界厳選成長株ファンド（FW専用）

月次運用報告書

追加型投資信託／内外／株式…ファミリーファンド方式

2025年11月28日

## [商品概要]

設定日：2022年5月31日 信託期間：約10年（2032年3月10日まで）

決算日：3月10日（休業日の場合は翌営業日）

設定・運用：

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

## ステート・ストリート世界厳選成長株マザーファンド 組入状況

組入上位10銘柄※ (組入銘柄数： 39 )

銘柄名	セクター	通貨	投資国	比率
ALPHABET INC-CL C	コミュニケーション・サービス	USD	アメリカ	7.5%
NVIDIA CORP	情報技術	USD	アメリカ	6.7%
MICROSOFT CORP	情報技術	USD	アメリカ	6.6%
TAIWAN SEMICONDUCTOR	情報技術	USD	台湾	5.3%
AMAZON COM INC	一般消費財・サービス	USD	アメリカ	4.1%
WIWYNN CORP	情報技術	TWD	台湾	3.8%
BROADCOM INC	情報技術	USD	アメリカ	3.8%
META PLATFORMS INC-A	コミュニケーション・サービス	USD	アメリカ	3.3%
SK HYNIX INC	情報技術	KRW	韓国	3.1%
APPLIED MATERIALS	情報技術	USD	アメリカ	2.9%

※比率はマザーファンド純資産総額対比です

## 運用状況と今後の方針

### <市場動向>

#### 【国内株式市場】

11月の国内株式市場は、上旬から中旬にかけて人工知能（AI）関連銘柄や相場の割高感に加えて、日中関係の悪化懸念も重荷となる中、軟調な展開となりました。その後は米追加利下げ観測を受けた米株高が相場を支える中、反発した結果、月間で上昇しました。

#### 【先進国株式市場】

11月の外国株式市場は、米追加利下げ観測が相場を支えましたが、米景気の不透明感や人工知能（AI）関連銘柄の割高感に加えて、オーストラリアの利下げ観測後退も重荷となる中、方向感に欠ける展開となりました。地域別の騰落率は、米国市場が横ばい、欧州市場が約1.0%の上昇、アジア市場が約1.8%の下落となりました。

#### 【新興国株式市場】

11月の新興国株式市場は、米連邦政府機関の一部閉鎖の解除期待や米利下げ観測が相場を支えましたが、中国景気や米中関係の不透明感、人工知能（AI）関連株の割高感などを背景とした米ハイテク株安に加えて、原油価格の下落も重荷となる中、下落しました。

### <運用概況>

当月のファンドの騰落率（分配金再投資）は、-0.40%となりました。

セクター別の寄与度は、順調な企業業績の拡大トレンドが株価の追い風となったコミュニケーション・サービスを始め、ヘルスケアや公益事業などがプラスとなりましたが、急速な普及が進む人工知能（AI）に対する当局による監視強化の動きや、AI関連事業への設備投資拡大による利益率の低下が懸念される中、株価の過熱感が意識されて利益確定売りに押された情報技術を始め、資本財・サービスや不動産などのセクターでの株価の下落が、ファンドの騰落率の主なマイナス要因となりました。個別銘柄別では、最先端AIモデル「Gemini 3」の発表に加え、順調な開発が進む自動運転部門（Waymo）に対する期待感を背景に株価が堅調に推移したアルファベット（米国、コミュニケーション・サービス）を始め、積極的な事業拡大に関する報道や難治性高血圧患者向け新薬の提供に対する期待感が株価を押し上げたグローバル・バイオ医薬品リーダーのアストラゼネカ（英国、ヘルスケア）や、同じくヘルスケア関連のアイティックス・ラボラトリーズ（米国、ヘルスケア）、IQVIAホールディングス（米国、ヘルスケア）の他、ブロードコム（米国、情報技術）やアプライド・マテリアルズ（米国、情報技術）、アマゾン・ドット・コム（米国、一般消費財）、ネクステラ・エナジー（米国、公益事業）、テトラ・テック（米国、資本財）、インターチェンジナル取引所（米国、金融）などの保有がプラスに寄与しました。その一方で、引き続き良好な企業ファンダメンタルズを維持しながらも、AI及び半導体関連業界内での競争の激化に加え、米中当局による供給規制の強化に対する懸念を背景に利益確定売りを余儀なくされたエヌビディア（米国、情報技術）を始め、同じく半導体関連のSKハイニックス（韓国、情報技術）や台湾積体電路製造（TSMC）（台湾、情報技術）、10月末に発表した第2四半期（7~9月期）の当期利益が事前の市場予想を下回ったことに加え、同時に発表した社長交代による今後の経営に対する不透明感から冴えない展開となった産業用オートメーション及び検査機器大手メーカーのキーエンス（日本、情報技術）の他、マイクロソフト（米国、情報技術）やサービスナウ（米国、情報技術）、メルカリドリフレ（米国、一般消費財）、エクイニクス（米国、不動産）、シナティーエレクトリック（フランス、資本財）、ワーバー・デノロジーズ（米国、資本財）、セールスフォース（米国、情報技術）、ショッピファイ（カナダ、情報技術）などの保有がマイナスに寄与しました。

### <今後の見通し>

4月以降、力強い上昇基調を維持してきた世界株式市場ですが、足元の11月はこれまでの急速な上昇基調に対する警戒感から売り買いが交錯し、全体ではほぼ横ばいの展開となりました。先進国市場では引き続き市場をリードする動きが見られた一方で、新興国市場はリスク回避主体の弱気なセンチメントや国外への資金流出による逆風に直面する結果となりました。投資家の関心は無差別な楽観主義から選択的な投資スタンスへと移る傾向が見られ、特にこの兆候はAI関連株において顕著に表されました。セクターの観点から見ると、ヘルスケアはここ数年で最も強い月となり、防御的リーダーとしての役割を果たしました。その一方で情報技術セクターは、特にAI関連の大型株がパリュエーション面での過熱感が意識されて利益確定売りに押されました。況えない展開となりました。

足元の世界経済のファンダメンタルズに目を向けると、全体として軟化の兆候が見られてはいますが、2026年の成長に対して当社では引き続き楽観的な見方を維持しています。米連邦準備制度理事会（FRB）は10月の会合で予想通り利下げを実施しましたが、パウエル議長は12月の追加利下げが確定ではないと発言していました。しかしながら実際には12月の会合（12月9日~10日開催）で、当社の予想通り今年3回目となる0.25%の利下げ（年合計0.75%）を行いました。当社では2026年にはさらに0.50%の緩和を行うと予想していますが、このような利下げ継続の根拠としては労働市場の軟化が挙げられます。インフレのリスクに関してはFRB内でも意見は分かれていますが、関税の影響などの一時的な要因が中心であることから、家賃の下落や労働条件の弱化、移民の減速がこれを相殺するものと当社では見ています。総じて、米国経済にはリスクが残っていますが、当社の基本シナリオでは来年にかけて堅調な成長を予想しています。予想される金融緩和に加え、堅調な個人消費や財政政策の継続が2026年までの成長を支えると見ています。インフレ再燃や労働市場の急激な減速、貿易面での不安などには注意が必要ですが、全体的なファンダメンタルズは堅調であり、米国経済の成長に対して前向きな見通しを持っています。このように、株式市場を取り巻く経済環境は改善傾向にあるものの、引き続き予断を許さない状況にあると考えています。われわれの運用プロセスは中長期的な視点に立つものであることから、市場のボラティリティや経済の不確実性が高まっている時代には、企業のファンダメンタルズに焦点を当てながら「谷の向こう側」に目を向けるようにしています。将来の出来事を予測することは困難ですが、長年の経験に基づく、高い品質（クオリティ）を備えた企業は、このような混乱を乗り越えることができると言えています。ただし、それは短期的な出来事を無視するという意味ではありません。関税や貿易戦争をめぐる最近の出来事は、ビジネスモデルを混乱させ、その結果、企業の品質に対する評価を低下させる可能性があることを認識しています。われわれが企業の質を見極める際に用いている独自の尺度（銘柄確信度（CQ））は、経験豊富なリサーチアナリストによって実施される将来を見据えた定性的評価です。これは、強力なビジネスモデルや価格決定力、ビジネスの掘り（参入障壁）、堅実なバランスシート、信頼できる経営陣などに着目し、永続的な競争優位性を持つ企業を特定しようとするものです。優れた企業が有する高い質こそが持続的な利益成長及び株価上昇の基盤になるとの信念のもと、引き続きこれらの銘柄に対して適正な株価水準を勘案しつつ敵選した銘柄への投資を継続致します。

○本資料は金融商品取引法上及び投信法上の開示書類ではありません。

○本資料は、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社（以下「弊社」とします）が当ファンドの情報提供を目的として作成したものであり、投資の勧説を目的とするものではありません。

○本資料中の過去の運用実績に関するグラフ・数値等は将来の成果をお約束するものではありません。また、市場概況等は本資料作成時点の弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成日現在のものであり、将来予告なく変更することがあります。

○当ファンドは主に国内外の有価証券に投資するため、組入れた有価証券の値動きおよび為替変動により基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託の商品特性上、上記以外のリスクもあります。

# ステート・ストリート世界厳選成長株ファンド(FW 専用)

追加型／内外／株式

月次運用報告書

設定・運用：ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

## ファンドの目的・特色

当ファンドは、「ステート・ストリート世界厳選成長株マザーファンド」への投資を通じて、中長期的な観点から、運用財産の成長をめざして運用を行います。

1. マザーファンドへの投資を通じて、日本を含む世界各国の金融商品取引所等に上場(上場予定を含みます。)している株式(預託証書(DR)を含みます。)へ投資します。
2. 当ファンドは、「ファミリーファンド方式」により運用を行います。
3. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

## 投資リスク

当ファンドは、主にマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に世界各国の株式等に投資を行いますが、主として以下に掲げる要因等により基準価額が大きく変動する場合があり、その運用成果(損益)はすべて投資者の皆さんに帰属します。したがって、投資者の皆さんの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、投資元本を割り込み、損失を被ることがあります。

なお、投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドの主なリスクおよび、留意点は以下のとおりですが、当ファンドのリスクおよび留意点を完全に網羅してはいませんのでご注意ください。

また、ファンドのリスクは以下に限定されるものではありません。

### <基準価額の主な変動要因>

#### 株価変動リスク

当ファンドは、日本を含む先進国および新興国の株式を実質的な投資対象としていることから、株式の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は、個々の企業の活動および業績、経営方針、ならびに法令順守の状況等に反応して変動するほか、投資対象国の経済情勢および景気見通し、ならびに金利変動、為替相場およびそれらの見通し等にも反応して変動します。したがって、マザーファンドに組み入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落する可能性があります。

#### 信用リスク

当ファンドは、日本を含む先進国および新興国の株式を実質的な投資対象としていることから、株式の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により損失を被ることがあります。また、金融商品取引の相手方や受託会社の決済不履行または債務不履行等により損失を被ることがあります。

#### 為替変動リスク

当ファンドの実質的な投資対象である先進国および新興国の株式は外貨建資産であるため、当ファンドの基準価額は為替変動の影響を受けます。一般に、主な為替相場の変動要因としては、金利変動、中央銀行等による政策金利の変更または為替介入、政治的要因等があります。

#### 流動性リスク

投資対象となる有価証券の市場規模や取引量が少ない状況や解約資金を手当てるために実質的に保有する有価証券を大量に売却しなければならない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

また、解約資金の手当てが間に合わず、売却した有価証券等の売却代金回収までの期間、一時的に当ファンドで資金借入を行うことによって解約金の支払いに対応する場合があり、その場合の借入金利は当ファンドが負担することになります。

○本資料は金融商品取引法上及び投信法上の開示書類ではありません。

○本資料は、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社(以下「弊社」とします)が当ファンドの情報提供を目的として作成したものであり、投資の勧誘を目的とするものではありません。

○本資料中の過去の運用実績に関するグラフ・数値等は将来の成果をお約束するものではありません。また、市場概況等は本資料作成時点の弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成日現在のものであり、将来予告なく変更することがあります。

○当ファンドは主に有価証券等に投資するため、組入れた有価証券等の値動きにより基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託の商品特性上、上記以外のリスクもあります。

# ステート・ストリート世界厳選成長株ファンド(FW 専用)

追加型／内外／株式

月次運用報告書

設定・運用：ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

## 投資対象国への投資リスク

当ファンドが実質的に保有する有価証券の発行国(投資対象国)における政治不安や社会不安、あるいは他国との外交関係の悪化などの要因により、投資成果に大きく影響することがあります。また、投資対象国の政府当局による、海外からの投資規制や課徴的な税制、海外からの送回金規制などの様々な規制の導入や政策変更等により、投資対象国の有価証券への投資に悪影響が及ぶ可能性があります。

## ＜その他の留意点＞

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。

これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

## ＜リスクの管理体制＞

運用部に属するポートフォリオ・マネージャーは約款に定める運用方針に加え、内部ガイドラインを作成し、徹底したリスク管理と厳格なポートフォリオ管理を行います。業務部の運用評価グループは、毎月パフォーマンス分析レポートを作成し、月次収益率と対ベンチマーク超過リターンの算出と要因分析を行います。コンプライアンス・リスクマネジメント部では、全ファンドにおける運用ガイドライン遵守状況を運用部から離れた立場で確認しております。投資政策委員会において投資行動やパフォーマンスに関する運用の報告内容を確認するとともに、毎月末の運用ガイドライン遵守状況等の確認をします。

委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

## ファンドにかかる手数料について

申込手数料…ありません。

換金(解約)手数料…ありません。

信託報酬…日々のファンド純資産総額に年率 0.869% (税抜 0.79%) の信託報酬率を乗じて得た額とします。

信託財産留保額…ありません。

その他の費用・手数料…信託事務の処理等に要する諸費用、有価証券等売買時の売買委託手数料、資産を海外で保管する場合の費用、ファンドの監査にかかる費用等がファンドから支払われます。これらは、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当収入および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも

○本資料は金融商品取引法上及び投信法上の開示書類ではありません。

○本資料は、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社(以下「弊社」とします)が当ファンドの情報提供を目的として作成したものであり、投資の勧誘を目的とするものではありません。

○本資料中の過去の運用実績に関するグラフ・数値等は将来の成果をお約束するものではありません。また、市場概況等は本資料作成時点の弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成日現在のものであり、将来予告なく変更することがあります。

○当ファンドは主に有価証券等に投資するため、組入れた有価証券等の値動きにより基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託の商品特性上、上記以外のリスクもあります。

# ステート・ストリート世界厳選成長株ファンド(FW 専用)

追加型／内外／株式

月次運用報告書

設定・運用：ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 【販売会社】

販売会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	—	○	○	—
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	—	○	○	○

※販売会社は今後変更となる可能性があります。

## 【受託会社】

受託会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
三井住友信託銀行株式会社 (再信託先: 株式会社日本カストディ銀行)	登録金融機関 (登録金融機関) (関東財務局長(登金)第602号)	関東財務局長(登金)第649号	○ (○)	— (—)	○ (—)	○ (—)	— (—)

## 【委託会社】

委託会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第345号	○	○	○	—	—

○本資料は金融商品取引法上及び投信法上の開示書類ではありません。

○本資料は、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社(以下「弊社」とします)が当ファンドの情報提供を目的として作成したものであり、投資の勧誘を目的とするものではありません。

○本資料中の過去の運用実績に関するグラフ・数値等は将来の成果をお約束するものではありません。また、市場概況等は本資料作成時点の弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成日現在のものであり、将来予告なく変更することがあります。

○当ファンドは主に有価証券等に投資するため、組入れた有価証券等の値動きにより基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託の商品特性上、上記以外のリスクもあります。